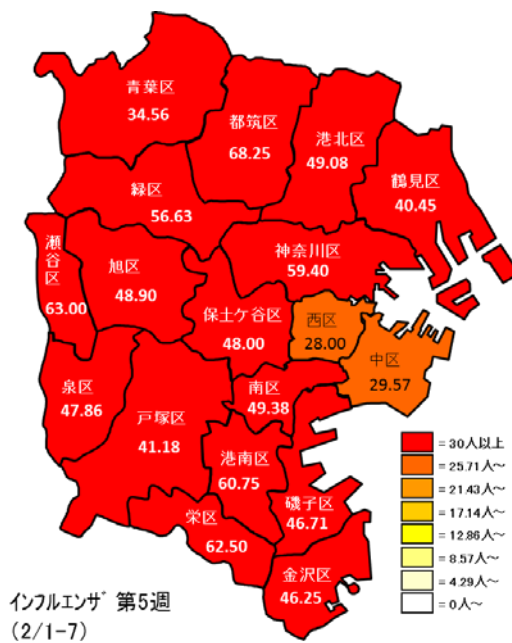
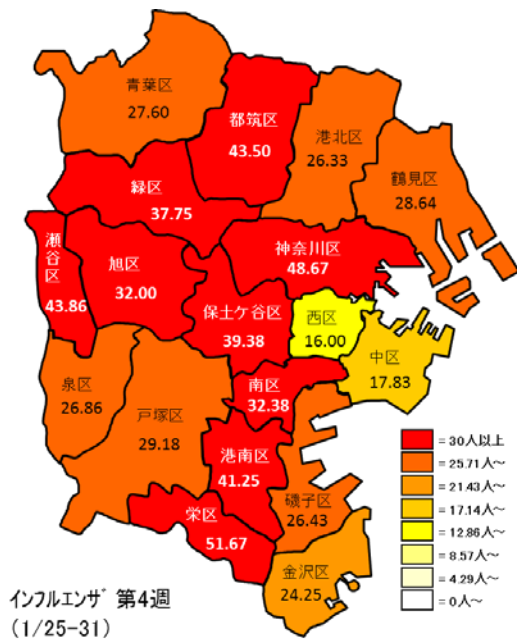


2 地図で表した直近 3 週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)



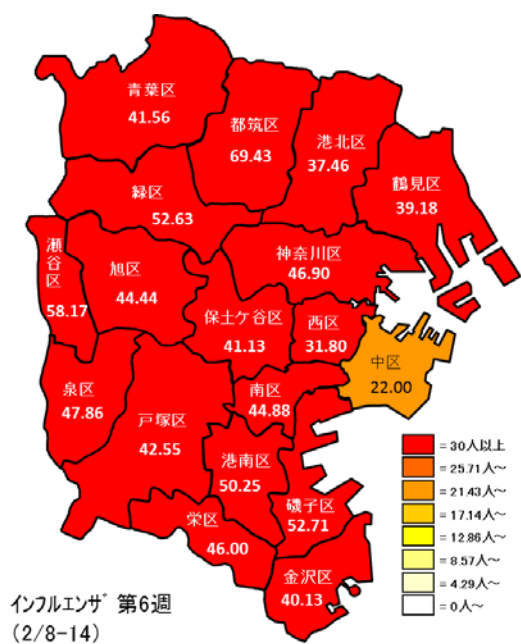
※参考リンク

近隣自治体の流行状況

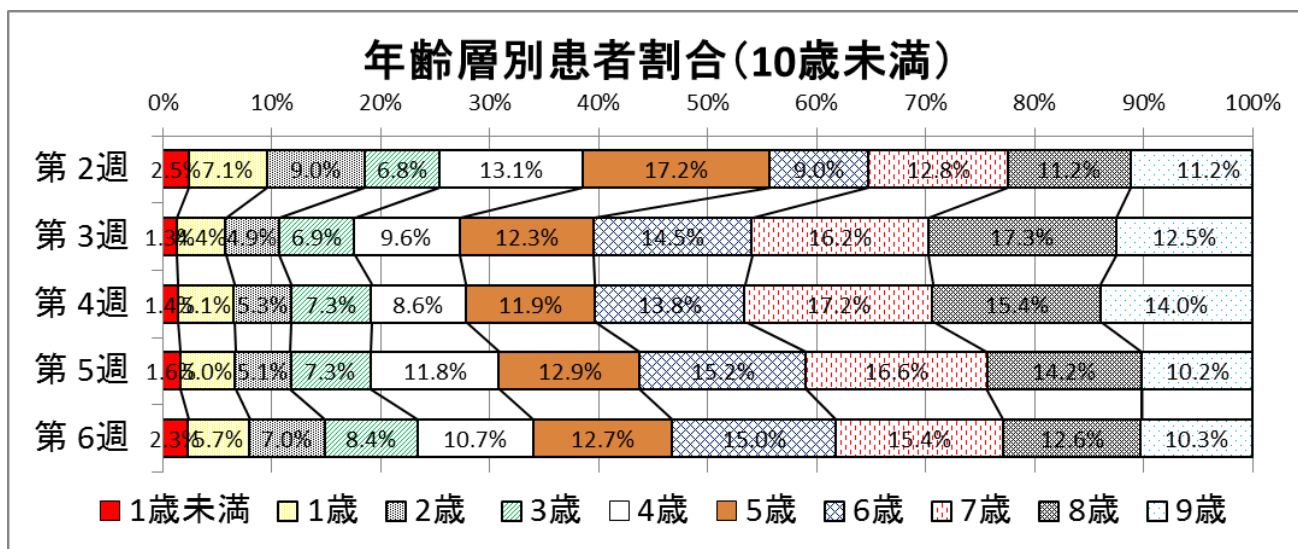
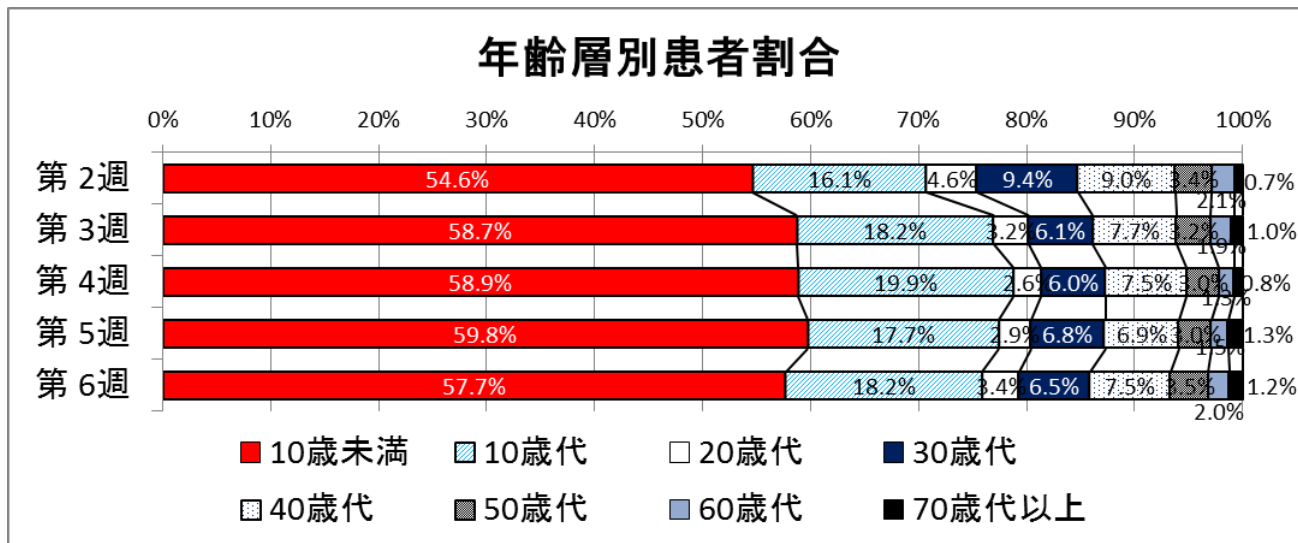
- [神奈川県](#)
- [川崎市](#)
- [東京都](#)

全国の流行状況

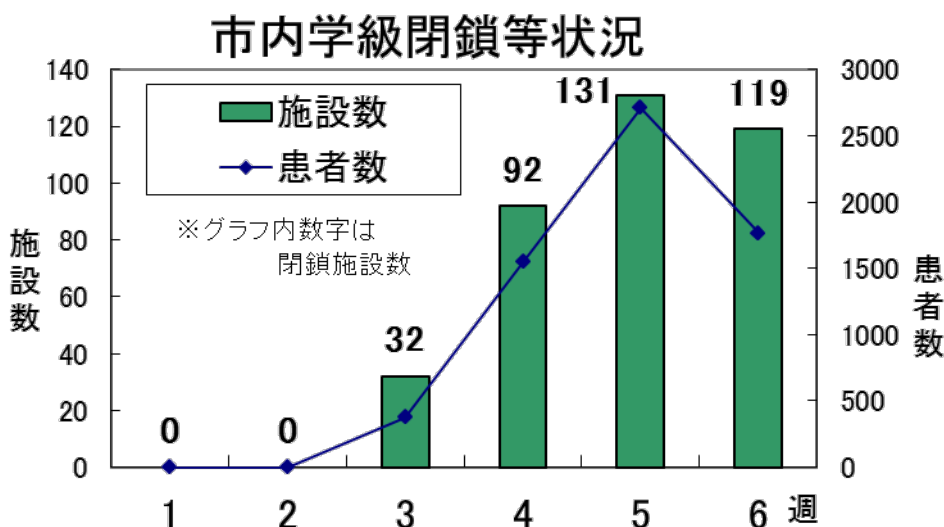
- [国立感染症研究所](#)



3 年齢層別患者報告数:直近 5 週間の患者年齢構成では、引き続き 10 歳未満が全体の約 6 割を占めています。10 歳未満の中では、7 歳、8 歳がやや減少し、2 歳、3 歳がやや増加しました。学校や幼稚園等での感染予防に加えて、早期受診などの重症化予防も重要です。

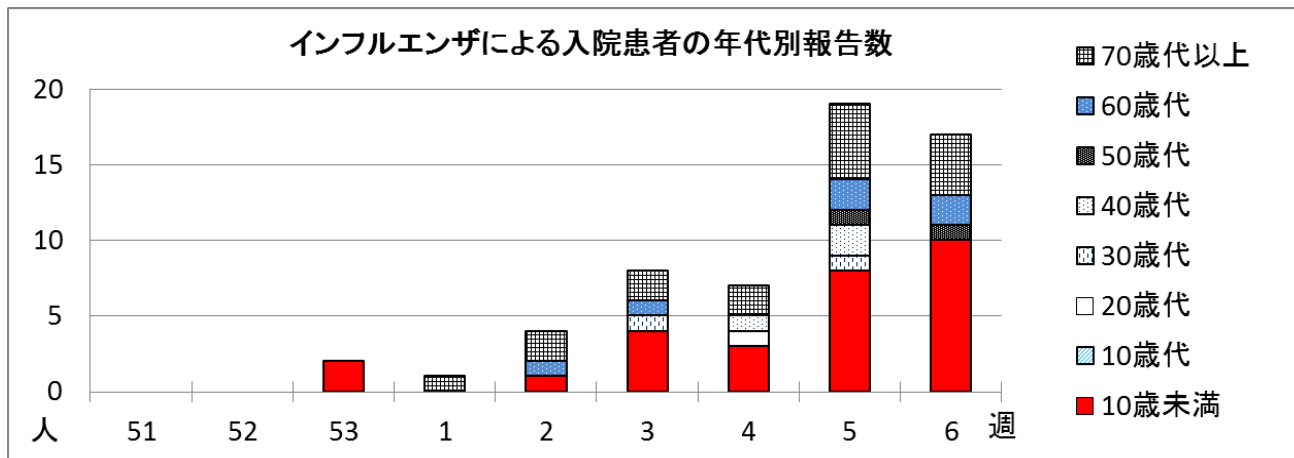


4 学級閉鎖施設数:
 市内の学級閉鎖は、**第6週は第5週と比べてやや減少**しました。第6週の閉鎖施設の内訳は、小学校 103、幼稚園 12、中学校 2、高校 1、その他 1 と、小学校が全体の 86.6%を占めています。閉鎖施設は、第7週に入っても報告が続いています。



5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※3}におけるインフルエンザ入院患者は、第5週、第6週と報告の多い状態が続いています。第6週は10歳未満が58.8%と最も多く、また、60歳以上が35.3%と、**小児と高齢者で入院が多く、重症化に注意が必要です。**

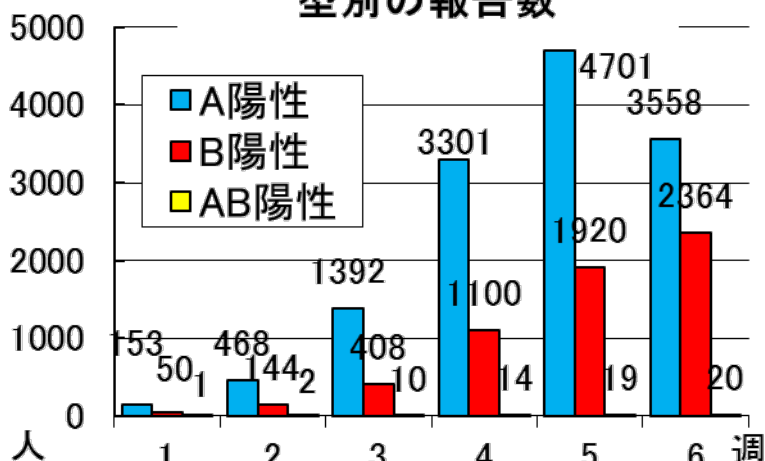
※3 基幹定点・・・患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



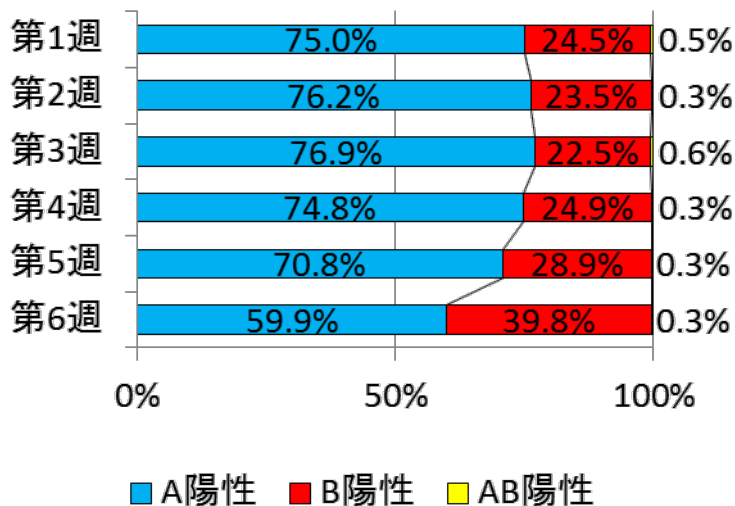
6 インフルエンザ脳症:第3週に1件(10歳代)の報告があり、**AH1pdm09**が検出されています。インフルエンザの重症化に注意が必要です。

7 迅速キット結果:市内医療機関における迅速キットの結果では、いままでA型、B型ともに増加していましたが、第6週は**A型の報告数が減少に転じました。**B型の報告数は増加が続いています。報告数の割合でも、B型が増加し、第6週はA型59.9%、B型39.8%、ABとも陽性0.3%と、B型が4割程を占めるようになりました。今後、A型の割合が減少し、B型が増加する傾向が続くと思われます。

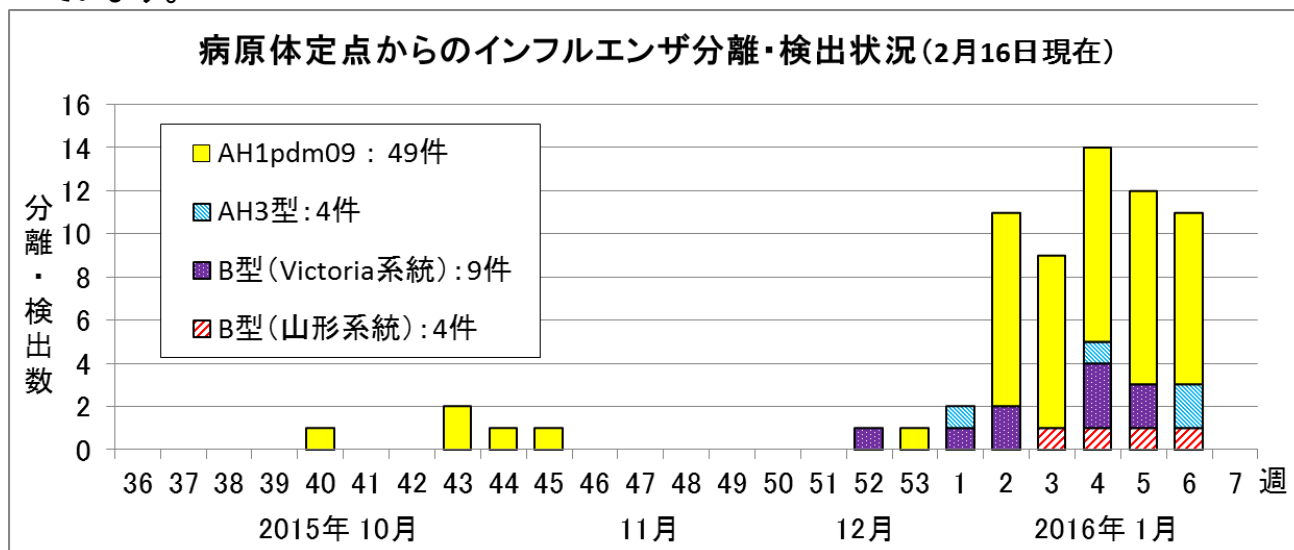
迅速診断検査キットによる
型別の報告数



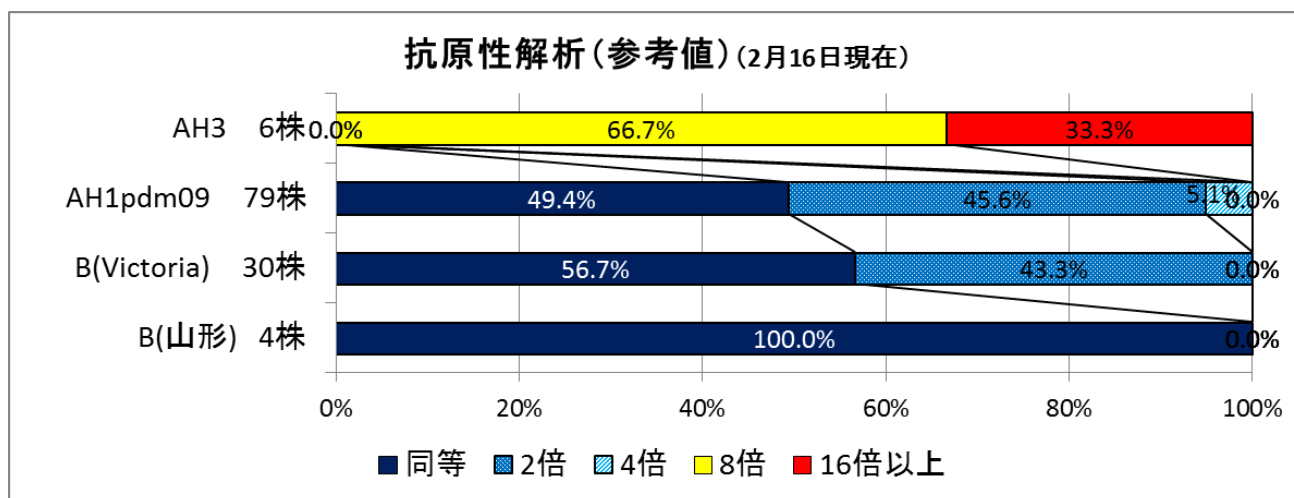
迅速診断検査キットによる
型別の割合



8 市内病原体検出状況:市内の病原体定点からは引き続き AH1pdm09 が最も多く分離・検出されています。第 6 週は AH1pdm09 型が 8 件、AH3 型 2 件、B 型(山形系統)1 件が検出されています。



9 分離株の抗原性解析:市内で検出された AH1pdm09 株(79 株)、B 型(Victoria 系統)株(30 株)と B 型(山形系統)株(4 株)では、ワクチン株との抗原性解析(HI 試験)は、**すべて HI 価 4 倍以内**でした。AH3 株(6 株)はすべて **HI 価 8 倍以上**でした。一般的に 4 倍以内でワクチン株と類似していると言われています。ただ、今回の解析にはウサギの血清を使っており、参考値です(B 型(山形系統)のみフェレット血清を使用)。正式な結果は国立感染症研究所での分析を待つ必要があります。



なお、国立感染症研究所からも、横浜市で分離された AH3 型のうち、2 株の抗原性解析結果が報告され、**16 倍以上の中和反応性低下(ワクチン株から変異している)**がみられました。AH1pdm09 型は 10 株、B 型(Victoria 系統)は 2 株の抗原性解析結果が報告されており、すべて **2 倍以内(ワクチン株と類似)**でした。また、国立感染症研究所から横浜市で分離された B 型(Victoria 系統)2 株の薬剤感受性検査結果が報告されましたが、オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、ラニナミビルへの**耐性はありませんでした**(2月16日現在)。

※ 週ごとの定点あたり報告数の変動について

流行情報発行後に医療機関から追加報告が寄せられることがあるため、週ごとの定点あたり報告数が変動することがありますのでご注意ください。

【お問い合わせ先】横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463
横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237